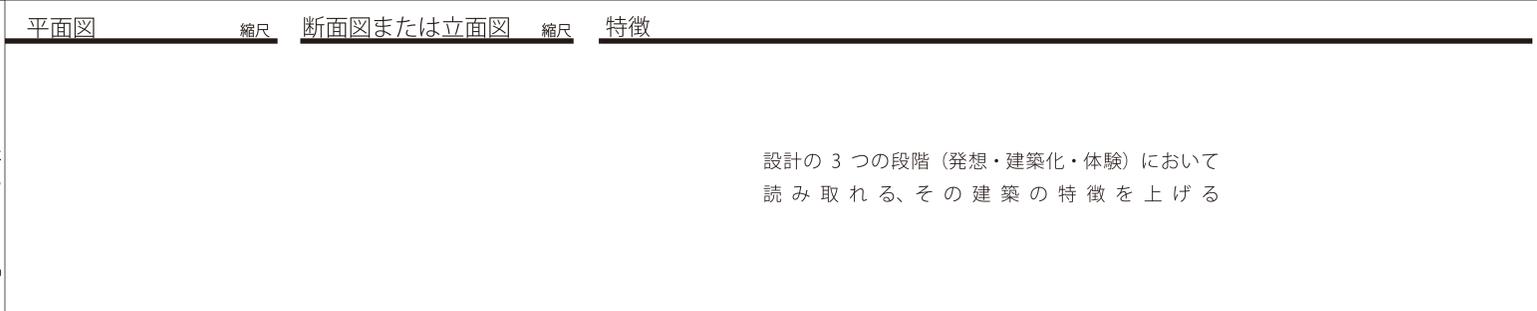


その建築に関するキーワード

その時代や社会など、建築が作られた背景を説明する

建築物の基本データ



目的

特徴から読み取れる、建築家はその建築に込めた、社会・文化・制度に対する目的を説明する。

グラフ

発想
建築化
体験

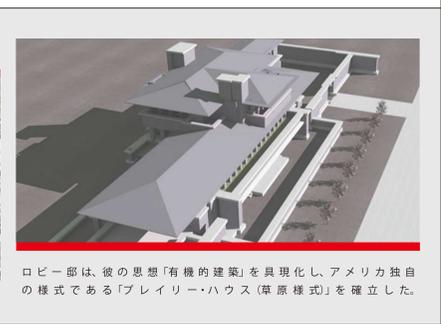
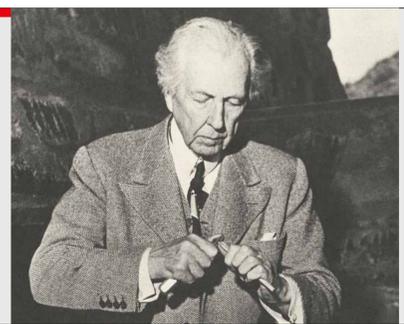
建築のプロセス・グラフを示す

Flank Lloyd Wright
フランク・ロイド・ライト
(1867-1959)

近代建築三巨匠の一人。

1867年：アメリカ・ウィスコンシン州に生まれる
1893年：アドラー＝サリヴァン事務所より独立
1908年：「ロビー部」竣工
1923年：「帝国ホテル」竣工
1935年：「落水荘」竣工
1959年：「グッゲンハイム美術館」竣工
1959年：92歳で死去

機能主義の思想を吸収し、アメリカ独自の様式を確立するために奮闘した。生涯に設計した建築は、800以上にのぼる。

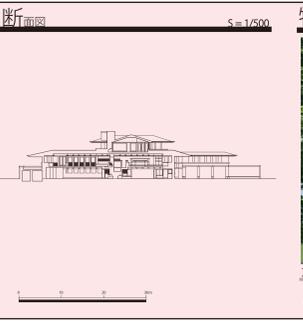
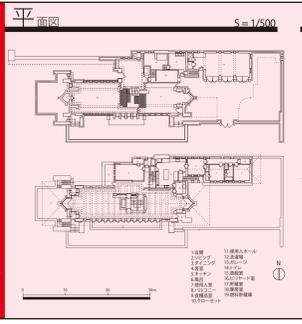


民主主義
シカゴ及びアメリカの住宅様式
有機的建築

イリノイ州シカゴに建てられた住宅である。当時のシカゴの住宅様式が、豪華・半地下の邸宅であったのとは対照的に、住居に特有の個人性は、それぞれの準則に厳密に押し込まれているのが特徴であった。

そのような身分による差別を排し、民主主義の思想を体現するアメリカ独自の建築様式の確立が求められていた。

- 設計: フランク・ロイド・ライト (1908年)
- 建築家(設計): フランク・ロイド・ライト
- 竣工: 1908年
- 建築面積: 1,041㎡



目的

従来の住宅様式を批判し、新たな住宅様式を提案する
住宅によって民主主義の思想を体現する

グラフ

発想
建築化
体験

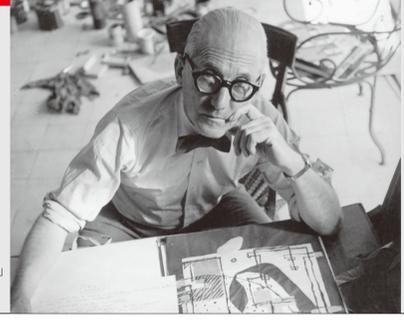
フランク・ロイド・ライトは、各部分が有機的に関連し、機能しあいがら一つの形態をつくる植物の仕組みに着想を得た。
濃厚な間仕切壁や、屋根裏・半地下室など、従来あった建築の形態・様式を排し、自身の思想を具現化するための新たな形態をつくりだした。
合理的な動線計画によって、身分差別のない民主主義の思想を体現した。

Le Corbusier
ル・コルビュジエ
(1887-1965)

近代建築三巨匠の一人。

1887年：スイスに生まれる
1924年：自身の建築論を集めた著作『建築をめざして』を発表。
1928(- 1956年)：CIAM(近代建築国際会議)開催
1931年：「サヴォア邸」竣工
1952年：「マルセイユのユニテ・ダビタシオン」竣工
1959年：「国立西洋美術館」竣工
1965年：海水浴中に死去

「住宅は住むための機械である」などの言説や「近代建築の五原則」「ドミノシステム」などの建築理論を生み出し、モダニズム建築の基礎をつくり上げた。

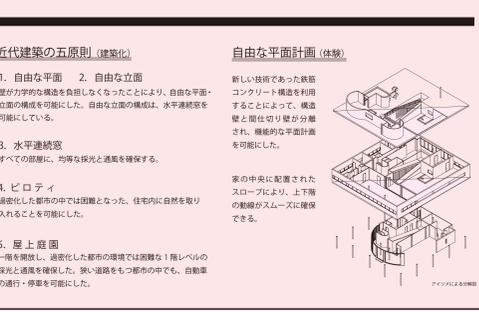
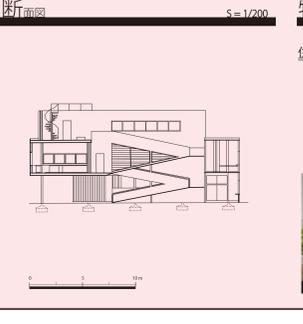
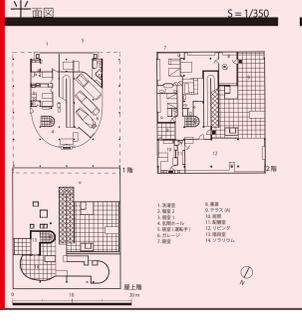


人口増加
都市環境の悪化
住宅の供給

産業革命以降の都市人口の増加、自動車・工場などの排煙などにより、都市に住む人々の住環境は急激に悪化していた。しかし都市に住む人々にとっては、そのような狭く、劣悪な環境で生活せざるを得ない現状があった。

都市において、健康的で明るい生活を確保する住宅を、多くの人々に供給することが求められていた。

- 設計: ル・コルビュジエ (1931年)
- 建築家(設計): ル・コルビュジエ
- 竣工: 1931年
- 建築面積: 1,036㎡
- 建築費: 160万円
- 建築費: 49万円



目的

従来の建築の様式を批判する。
大衆に、大量生産が可能な住宅を供給する。
悪化した都市の住環境を改善し、明るく健康的な生活を可能にする。

グラフ

発想
建築化
体験

ル・コルビュジエは、各部分が合理的に組み合わさって全体を構成する、というような機械の仕組みに着想を得た。
その機械的仕組みを、近代建築五原則という形で建築化した。
この建築では、従来の建築の様式では不可能であった自由な平面計画が可能であり、新たな計画手法を可能にしている。

Mies Van Der Rohe
ミース・ファン・デル・ローエ
(1886-1966)

近代建築三巨匠の一人。

1886年：ドイツのアーヘンに生まれる。
1929年：ハレセロナ万博ドイツ館「ハルセロナパビリオン」
1930(- 1933年)：パウルハウス第3代校長
// : アメリカに亡命
1950年：「ファンスワース邸」
1958年：「シーグラム・ビル」
1959年：83歳で没

「Less is more」などの標語により知られる。鉄とガラスを駆使した建築により、近代建築の確立に大きく貢献した。

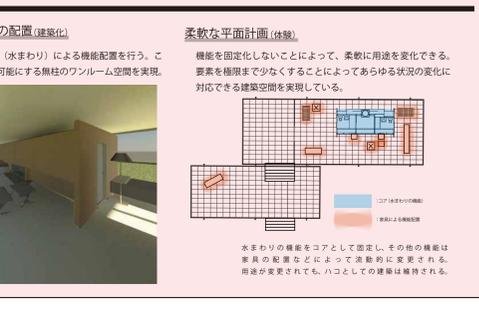
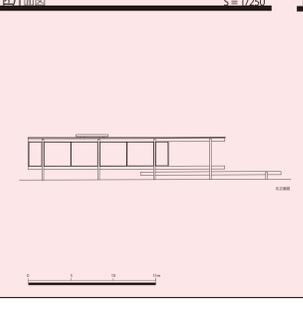
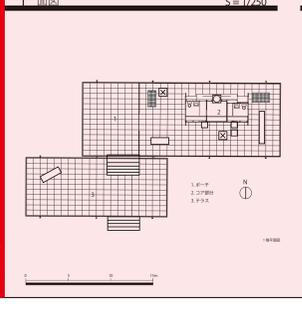


工業化
急速に変化する消費社会
Less is more

第二次世界大戦後のアメリカは、工業化が促進され、大量生産・大量消費の時代に入ろうとしていた。

急激な社会的変化にも容易に対応可能なシンプルな構造を持つ、プレファブリケーション化した建築が求められていた。

- 設計: ミース・ファン・デル・ローエ (1951年)
- 建築家(設計): ミース・ファン・デル・ローエ
- 竣工: 1951年
- 建築面積: 3,000㎡
- 建築費: 194.5万円
- 建築費: 40万円



目的

住宅のプレファブリケーションをめざす
大量生産・消費の時代に耐える建築をつくる

グラフ

発想
建築化
体験

ミース・ファン・デル・ローエは、工業製品の生産のシステムに着目した。
コアと家具による機能配置により、平面計画を実現。
あらゆる用途変更に対応できる、柔軟性のある平面計画を実現している。

近代へのパラダイムシフト ～3人の巨匠達～

近代社会には世界中に大きなパラダイムの変化がおり、世界は複雑になり、混乱していました。
建築にも大きな変化があり、新たな産業や、芸術、政治信条などに呼応した様々な運動が起こります。

フランク・ロイド・ライト、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエの3人は、そんな時代の建築をまとめ上げた人たちです。

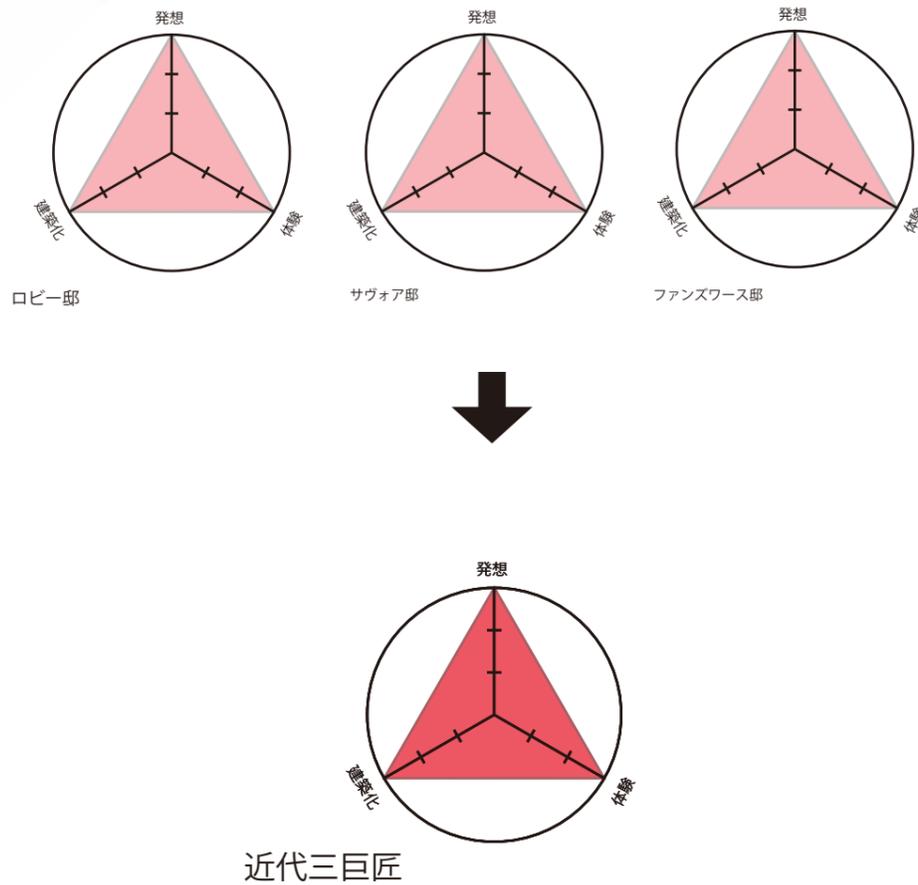
建築の美的表現のみならず、近代社会に相応しいとされる様々な考えを吸収し、編集しました。

近代だけでなく、現代社会と現代建築の基礎をつくる重要な一端を担った人たちです。

その意味で、まさにこの3人は近代の巨匠たちに数えられるでしょう。

これらの主張の内容は既成の価値観・文化・制度に対する批判的な提言で

彼らの主張は新たな価値観、文化・制度をつくっていったのです。



彼らの建築のプロセスグラフを見てみましょう。

〈発想〉、〈建築化〉、〈体験〉のすべての段階において最大値を示しています。

彼らは新しい時代に相応しい建築の様式を確立するために、今までになかった思想や技術を建築に応用し、

新たな価値観を提示しようとしたことがわかります。

その意味で、まさにこの3人は近代の巨匠たちに数えられるでしょう。